



市章

広報 えびな

発行・海老名市役所・海老名市国分155/編集・秘書広報課/電話・31-2111(代)/〒243-04

世帯と人口

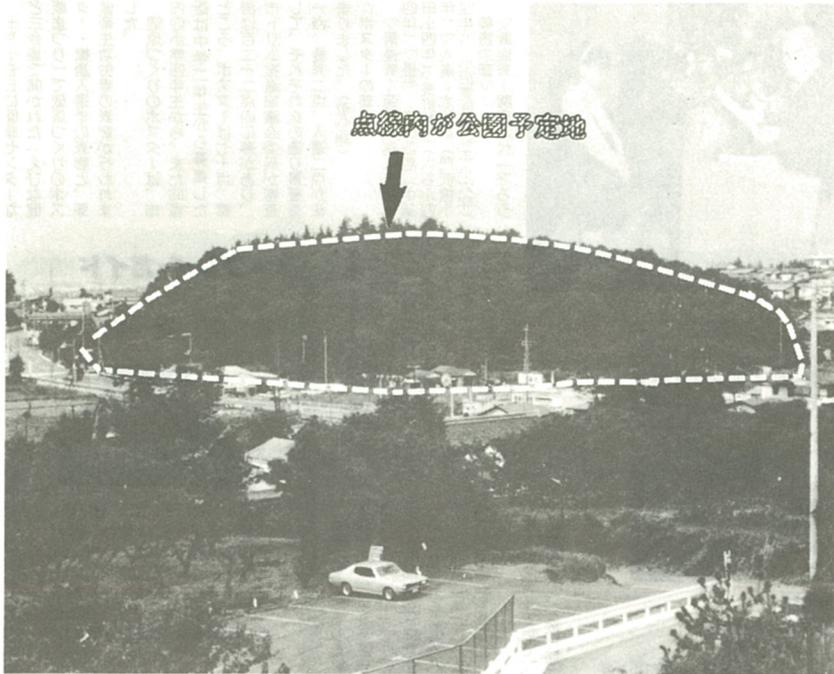
昭和58年10月1日現在
世帯 26,615世帯 (+57)
人口 87,400人 (+110)
男 44,885人 女 42,515人

毎月1日・15日発行

緑いつぱいの公園

国分伊勢山地区に自然公園

開発が進み、自然が失われつつある市内では、子供たちが自然の野山で遊ぶなどということとはほとんどできない状況になっています。同様に自然の森も非常に減少し、緑なくして快適な生活が望めない人間にとって、このままではいけないとたれもが考えていることでしょう。市では、この「たれ」とから自然緑地や樹木の保全に努め、さらに民家の庭の生け垣設置を奨励するなどの活動をしていきますが、今度地権者の絶大なご協力で自然の森林を利用した「伊勢山自然公園」が整備されることになり、緑の保全に加えて森林浴もできる、と期待されています。



点線内が公園予定地

小高い丘状の伊勢山自然公園予定地(東南側から撮影、点線内の民家などは除く)

来年1月から開園

整備が予定されている公園は、国分地区の小字伊勢山と「宿」にかかると、面積は二万二千三百一十平方メートルです。公園の名称は、この小字名「伊勢山」を取って名付けられています。山林の所有者は、池田正一郎氏(国分二六七五、七十七歳)と池田正雄氏(国分二四八、七十九歳)で、これらの山林はかねてから市の自然緑地保全区域に指定され、ほぼ自然の状態が保たれた森でした。

この二氏から「この山林をこのまま保存するだけでなく、広く市民に開放して自然を味わってもらえるようにしてほしい」とのお話をいただき、市ではこの土地をお借りして自然公園として整備する計画を立てました。

両氏の承諾を得て決定した計画は、東西に出入口を設け、幅一・五メートル前後の園路を約五百メートルにわたって園内にめぐらし、ほぼ中央に広さ約三百二十平方メートルの広場を設置。外周はフェンスで囲むことになっています。園路や広場は、コンクリート

で固めたりするのはなく、森を最少限に切り開き、自然の土の上を歩けるようにします。また、倒木を利用してベンチなどを作り、何か所かに配置する予定です。工事は十二月までに完了し、来年一月から利用いただく予定です。

自然を囲い込む

市内の緑は、高度成長期以来の急激な宅地開発で急速に減少しています。例えば、昭和四十四年に市内全体で百七十八・五四あった山林が、十年後の五十四年になると百九・四四で、実に四割が失われたことになりました。

こうした緑を守るため、市では、個人や団体所有の山林や樹木をそれぞれ自然緑地保全区域(山林)、自然緑地保存樹木(樹木)として、所有者の承諾を得て指定し、保護しています。これらの指定期間は五年間です。現在指定を受けている山林は十七万六千平方メートル、樹木は三十三本

代々薪炭用に

公園用地所有者
池田正一郎さん
(国分、70歳)



あの山林は、薪炭用の木を育てるために代々経営してきたもので、かつてはあのような山林が付近にもたくさんあり、相模野の風物のひとつでした。緑が減った今、みなさんに四季折々の自然を身近な場所であらっていただけたら、と思います。

樹木に名札を

公園用地所有者
池田正雄さん(国分、79歳)



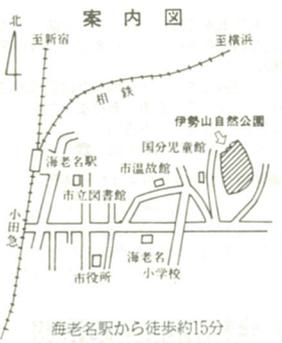
あのような山林の中には、私たちが池田一族代々の墓地もあり、と桜並木(百三十五本)です。今度、伊勢山自然公園になる山林もこの自然緑地保全区域に指定され、保護されてきた森です。

伊勢山自然公園は、ナラ、クヌギなどの樹種を中心とする自然の雑木林をそのまま囲い込んで公園とすることに意義があります。今では非常に少なくなった相模野の雑木林の散歩を楽しんでいただけたらいいと思います。

特異な公園として

市内の公園は、千平方メートル以上の広さを持つ都市公園、千平方メートルに満たない児童遊園地があり、そのほかに健康つくりを目的とした公園が数多くあります。

伊勢山自然公園は、先の都市公園、児童遊園地など遊戯や運動を目的に整備された公園と異なり、四季折々の自然を味わっていただくという点で市内の公園としては特異であり、子供の自然観察や今流行の「森林浴」もできる場所として市民のみならず、大いに利用いただけるもの(こと)と見えています。



海老名駅から徒歩約15分



大谷の農村歌謡舞伎も行われまし

十一月二十三日(水)祝日
午後0時半開演、市文化会館
▽演目 人形三番叟(厚木、大島)
獅子舞(相模原、双盤念仏(大和)、百万遍念仏(山北)、木遣(鎌倉)、民謡初潮(川崎)、同麦打ち唄(平塚)、回子守唄(綾瀬)、チャッキラコ(三浦)

郷土芸能が一堂に

第20回神奈川県民俗芸能大会

さくら踊り(海老名)海老名さくら踊り保存会、秦野、厚木、祭りはやし(海老名)門沢盛波谷はやし保存会、湯河原、寒川、横浜、農村歌謡舞伎(海老名)大谷芸能保存会、▽入員一千百人(超えた場合は別途)▽申し込み十一月十七日(土)正午まで、電話で市社会教育課、または十一月十日までに往復ハガキで県教育庁文化財保護課(〒二二一 横浜市中区日本大通三十三、返信ハガキの表にあなご住所、氏名、裏に民俗芸能大会、十一月十七日、観覧希望人数、氏名、電話番号を記入)へ▽問い合わせ 県民俗芸能保存協会 ☎〇四五・二〇一・二二一 内線131510。



貧血検査にも大せいの人たちが...
十月十日から十七日までの間、「健康!みんなの願い」をテーマに「おえびな健康まつり」が市健康センター、厚木保健所、海老名支所、二子一海老名店で開かれました。
今回は、貧血・尿の検査や医師、保健婦、栄養士の方などが相談に応じる健康チェックのほか、「展示、不用品交換、講演など」も行われ、楽しみな健康まつり。管理ができるようになって約四百五十人の方が会場に訪れました。特に、会社での健康チェック五十品を展示した「おわじの給食」

フィットネス

楽しく健康管理
83えびな健康まつり
十月十五日から三日間、今年も「みんなの消費生活展」が二子一海老名店三階あじあじ通りで開かれ、各種コーナーやアトラクションに多くの方が来場しました。
今回は、「訪問販売は何か?」をテーマに、訪問販売の手口、ドラブルの防止対策を紹介。私

第2回市交通・防犯 市民のつどい

警察犬も特技を披露

11月19日(土)午後1時~4時、市文化会館
▷内容=式典とアトラクション(警察犬訓練実技、変わったね自動車(警察犬訓練実技、変わったね自動車)の試乗、大谷中ドリル演奏、県警音楽隊・カラーガード隊など)、展示(交通・防犯ポスター、白バイ・パトカーなど)▷入場自由(参加者には記念品)▷問い合わせ=生活環境課

温故館特別展 「海老名の遺跡」(入場無料)

とき 11月15日~12月4日・午前9時~午後5時(月曜・祝日休館日)
ところ 市温故館 ☎33・4028
内容 柏ヶ谷遺跡、杉久保遺跡、上今泉遺跡、本郷遺跡、上杉田遺跡、望地遺跡から出土した石器・土器や出土状況の写真パネルなど約300点を展示
主催 市教育委員会(問い合わせは、社会教育課、または温故館)
〇柏ヶ谷遺跡から出土した「国府型ナイフ型石器」

「生活に役立つ」と好評
「健康!みんなの願い」をテーマにした「おえびな健康まつり」が市健康センター、厚木保健所、海老名支所、二子一海老名店で開かれました。
今回は、貧血・尿の検査や医師、保健婦、栄養士の方などが相談に応じる健康チェックのほか、「展示、不用品交換、講演など」も行われ、楽しみな健康まつり。管理ができるようになって約四百五十人の方が会場に訪れました。特に、会社での健康チェック五十品を展示した「おわじの給食」

今年も10会場
市民レクリエーション大会
十月十日の「スポーツの日」を中心に、市内十会場で行われた市民レクリエーション大会には約九千五百人の市民のみなさんが参加して、良い汗を流しました。
同大会は、各市区自治会と市が、地域・市民の親睦と体力増進を図るために毎年行っているもので、競技種目も盛りだくさん。激しいレースを展開



校地内にある「義民処刑の趾」

県立中央農業高等学校の校地内、玄関前八十ほど高方に、義民処刑の趾という高さ二・四六八四、大谷村の名主・鈴木三左衛門という人が凶作と苛(か)政に苦しむ百姓を救うため強訴しようとしたが、密告する者があって事前に捕えられ、九歳と七歳の二人の男の子と共に斬(ざん)首の刑に処せられた。恨み尽きない場所なのである。
中央農業高校は、はじめ中新田に建設されたものだが、校地の拡張によって隣接する海老名、大谷の一部を併合して三地区にまたがった。境界もはっきりしなくなってきた。しかし、江戸時代の絵図でもこの処刑場(おきば)は今里に所

自作の陶器に感激
県立有馬高校の陶芸実習が開始
十月八日、県立有馬高校(堀江澄男校長)の陶芸実習の第一回が、県立有馬高校で開かれ、生徒たちは自作の陶器に感激した。
同校美術担当の陶芸実習指導(二十六歳)の指導で、コーヒークップを作った生徒たちは、窯から出て来た自分の作品を見て、驚かされた。感激したり、それぞれ世界にひとつしかないコーヒークップは、ハート形や三角形、また、微妙にゆがんだ四角形など個性あふれるものばかりでした。
陶芸実習は、最近の子供は作るべきではないという声をあまきり知らないようです。理屈抜きで一生懸命作るという作風の中、生徒自身が持つ創造性の上から、生息を引き出せたいと思います」と語り、この窯の完成で指導にも一段と熱が入りました。

この大エビキは安政三年の大風で倒れてしまったが、このあたりでは、嵐の晩や雨のしとしと降る夜は人の泣き声や雷が聞えたり、鬼火が燃えたりと今も語り伝えられている。
地元の人たちは昔からあると云って恐れ、その周りは長い間だれも手をつけなかったが、戦時中食糧増産のため一部開墾してアスキヤアワを作った人もあった。
校地になってからこの「おきば」は昔の形をなぞられてしまったが、当時生徒が「おきば」をなぞったという話も聞かれました。このおきばは、昔の形をなぞられてしまったが、当時生徒が「おきば」をなぞったという話も聞かれました。

義民処刑の地
第78話
幅三十センチの花崗(こう)岩の碑が建てられている。これは今から三百年ほど昔、貞享元年(一六八四)、大谷村の名主・鈴木三左衛門という人が凶作と苛(か)政に苦しむ百姓を救うため強訴しようとしたが、密告する者があって事前に捕えられ、九歳と七歳の二人の男の子と共に斬(ざん)首の刑に処せられた。恨み尽きない場所なのである。
中央農業高校は、はじめ中新田に建設されたものだが、校地の拡張によって隣接する海老名、大谷の一部を併合して三地区にまたがった。境界もはっきりしなくなってきた。しかし、江戸時代の絵図でもこの処刑場(おきば)は今里に所

この大エビキは安政三年の大風で倒れてしまったが、このあたりでは、嵐の晩や雨のしとしと降る夜は人の泣き声や雷が聞えたり、鬼火が燃えたりと今も語り伝えられている。
地元の人たちは昔からあると云って恐れ、その周りは長い間だれも手をつけなかったが、戦時中食糧増産のため一部開墾してアスキヤアワを作った人もあった。
校地になってからこの「おきば」は昔の形をなぞられてしまったが、当時生徒が「おきば」をなぞったという話も聞かれました。このおきばは、昔の形をなぞられてしまったが、当時生徒が「おきば」をなぞったという話も聞かれました。



上々の出来はまたニコリ

自作の陶器に感激
県立有馬高校の陶芸実習が開始
十月八日、県立有馬高校(堀江澄男校長)の陶芸実習の第一回が、県立有馬高校で開かれ、生徒たちは自作の陶器に感激した。
同校美術担当の陶芸実習指導(二十六歳)の指導で、コーヒークップを作った生徒たちは、窯から出て来た自分の作品を見て、驚かされた。感激したり、それぞれ世界にひとつしかないコーヒークップは、ハート形や三角形、また、微妙にゆがんだ四角形など個性あふれるものばかりでした。
陶芸実習は、最近の子供は作るべきではないという声をあまきり知らないようです。理屈抜きで一生懸命作るという作風の中、生徒自身が持つ創造性の上から、生息を引き出せたいと思います」と語り、この窯の完成で指導にも一段と熱が入りました。